

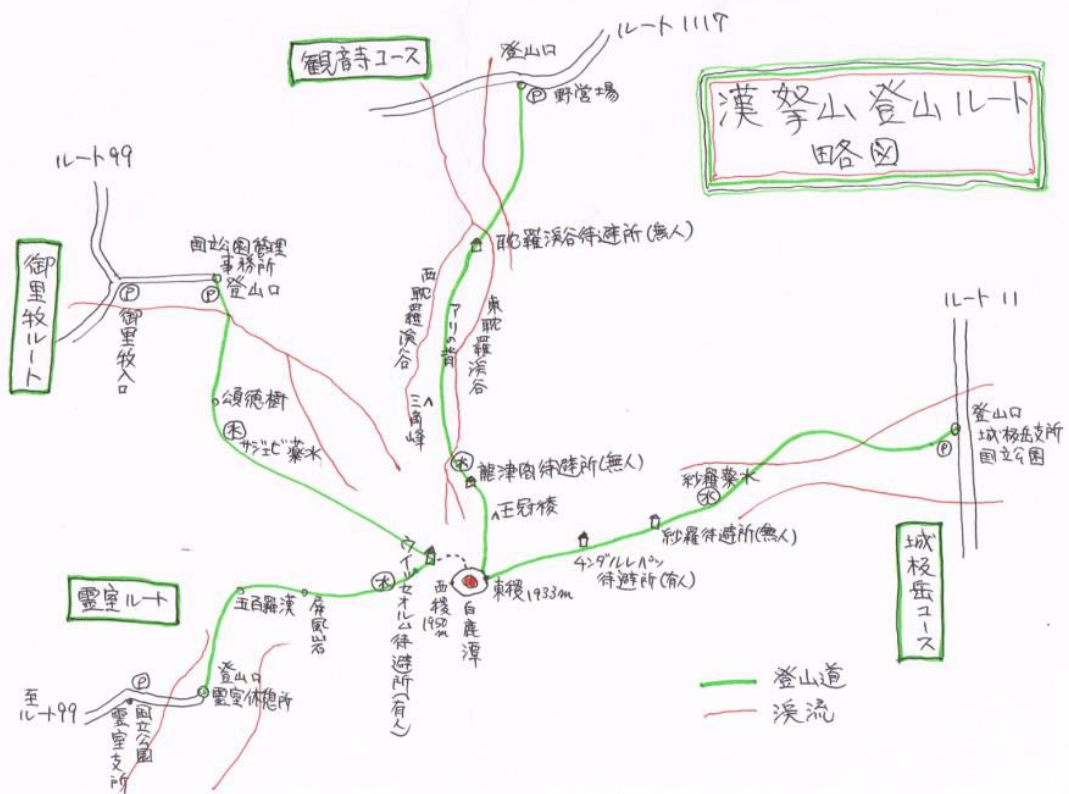
## 山に親しみ山に想う(17)

### — 韓国の最高峰・漢拏山に登る —

＝岡本＝

濟州島の寄生火山(オルム)を題材にした随想を8回にわたって既に掲載した。そのオルムの拠り所であり、韓国最高峰(標高1950m)の漢拏山(ハルラサン)には、四季折々に11回登った。

漢拏山登山には4コースあって(注1)、城板岳(ソンパナック)コースと観音寺(クワヌンサ)コースは、山頂火口湖の白鹿潭(ペックノックタン)東稜(標高1933m)まで登ることができる。他の御里牧(オリモック)コースと霊室(ヨンシル)コースの最終到着点は、標高1700mのウイッセオルム(威勢オルム)待避所であり、その先の山頂へのルートは通行禁止となっている。山頂火口湖の白鹿潭稜線までは6回、ウイッセオルム待避所までは5回登った。2004年に9回、2005年に2回登った後、漢拏山登山をぷつり止めてしまったのは、オルム(寄生火山)探訪に関心が移ってしまったからである。



漢拏山登山では、いずれの回も登山日和に恵まれて、荒天、吹雪にあったことがなかった。漢拏山の柔和な面しか知らず、厳しい顔を見ることはなかった。漢拏山は、1570年に火山活動をしたことが報告されている休火山である。ハルラサンという名前は、「ハヌルサン」(空の山の意)から付いたとする説や銀河水を引き寄せる程の高い山ということから付いた名前という説もある。別称として頭無岳(トムアック)、耽羅山(タムラサン)、朝鮮富山(チョソンプサン)等20余の呼称があるという。城板岳、観音寺、御里牧及び霊室の4コースの山行を簡単に報告する。濟州道勤務当時、日々の出来事をファックスで留守宅に送っていた。漢拏山に登った日のファックス内容は、自ずから山行報告と変わらないものとなった。

本随想では、そのファックスをそのまま書き写した上で、漢拏山登山の理解を深めてもらえる

ように補足を加えた(ファックス信は「 」括弧内、補足は「 」括弧内)。

(1) 城板岳コース(2004年5月5日、晴れ)

[漢拏山の東麓より登るコースで片道の距離 9.6km と最も長いですが、傾斜が緩慢なので所要時間は 4 時間 30 分と 観音寺コース(8.9km、5 時間)より短い。観音寺コースより楽で城板岳コースから登る人は多い。登りを城板岳コースにとり、観音寺コースから下る 18.5km の山行となった。] 「今日の山行は長い距離であったが、コース中危ないところはなく、分岐もない一本道の登山路はよく整備されている。ソウル近郊の北漢山と比べると、山自体は壮大だが、コースは単調で面白味は少ない。

注文した車がまだ来ていないので、家よりタクシーで 6 時 20 分に出発。7 時前に城板岳登山口のある城板岳入山切符売場に到着。売店でキムパップ(韓国太巻き)とフィルムを買う。登山口は標高 750m、1183m の登高となった。7 時に登山開始。登山口を入れて暫くは、殆ど平坦に近く、2m 幅の登山路。溶岩の礫を敷き詰めた路で歩きにくい。両側の樹林は、ミズナラのようなようだった。登山者は多くもなく少なくもないが、時々追い抜いていく。やがて、ドンドン抜いていく人が増えた。自分はよそ見をしながら、写真を撮ったり、ノンビリしたものだ。韓国人はセッカチだ。急いでどうする。ゆるりと参ろう。



7 時 30 分に 1.3km 地点通過。路は相変わらず平坦。足元は小石(礫)。8 時、笹の群生と樹林帯。8 時 5 分に 3.1km 地点通過。案内板に、チンダルレパツ(ツツジ原)待避所(有人)に 13 時までに着かないと頂上まで行けない、とある。8 時 25 分にトイレのある広場着。8 時 30 分に標高 1100m を通過。8 時 45 分に水場の紗羅薬水場に到着。10 人程休憩。8 時 55 分に 5.6km 地点、標高 1217m の紗羅待避所(無人)に到着。10 畳程のセメント造りの部屋だけで他に何もない。トイレあり。頂まであと 4km。チンダルレパツまであと 1.7km。

[紗羅待避所の少し先で、左手(南方向)の人跡路を入ると、火口湖をもつサラオルムがある。このオルムの東北側から水をパイプで登山道まで引いたのが、紗羅薬水場である。]

「9時15分に標高1300mを通過。笹と中背の樹林帯（主にチョウセンシラベ）。9時40分に中背の樹林帯から灌木のある原野に出る。視界が開ける。9時45分にチンダルレパツ待避所（標高1540m）に到着。簡易売店があり、カップラーメン、缶コーヒーを販売。トイレ完備（屋根にソーラー電池版）。ここで太巻きの昼食。陽は燦爛。風なし。空は快晴に近い。30人程が昼食中。カップラーメンが人気だ。案内板に、13時まで待避所を出発し、頂上からは14時30分までに下山…と注意書がある。」 [チンダルレパツ待避所には、漢拏山国立公園管理事務所城板岳支所の職員が常駐し、自然保護活動と遭難救助を行いつつ売店を営業している。この辺りはツツジ原という名のとおり、以前にはツツジが多く咲き誇り壮観だったというが、現在は笹類が幅を利かしている。3時間視界のない単調な歩行を強いられてきた登山者は、茫洋と開けた原野に出くわし、解き放たれる。] 「10時05分にチンダルレパツ待避所を出発。また灌木と笹地帯。少し急坂になる。10時50分に灌木がまばらとなり、頂上稜線を遠望。11時に灌木がなくなり、森林限界に入る。這松のみ。道幅も狭くなる。小岩の道。丸太を敷いた階段の急登。頂上が屏風のように見える。11時25分に漢拏山頂上の白鹿潭東稜（標高1933m）に到着。溶岩の凸凹の広がり。崖の向こうに火口湖、白鹿潭。向かいの西稜は最高点の標高1950m。西稜に回れない(注2)。頂上の監視小屋の係員は、ここで食事せずにチンダルレパツ待避所で摂れと注意。ゴミが飛ばされ白鹿潭に落ちて掃除ができないからだ。学生の団体が多い。50人程が注意にもお構いなく弁当を広げている。湖面は緑色、火口の底に消えいらんばかりの僅かな湖水。2、3日前に大雨が降ったのに少ない。」



「田部井淳子女史は、1995年と2013年の2回漢拏山に登頂しており、白鹿潭東稜の混み具合を竹下通りみたいと驚いた由。」

「11時43分に下山開始。観音寺コース8.7kmへ。観音寺コースの下りは雄大な景色を見ながらの部分が多い。道幅も1m程と狭く、ソウルの北漢山の趣き。12時20分に標高1700m地点通過。12時33分に王冠稜到着。ここから眺望できる白鹿潭頂上稜線、崖の姿は偉観。うぐいすのホーホケキョを聴きながらハルラの自然桃源に居る(駄作) - 12時45分に龍津閣待避所(無人)に到着。5分程下ると、溪流の水場、水とは珍しい。今日のコースで流れているのはここだけ。他は涸れており、窪みに水が溜まっているだけ。13時05分に三角峰麓を通過。14時30分に耽羅溪谷待避所(無人)に到着(崩壊の懸念があって入室禁止)。

この後、溪流を3、4箇所渡るが、流れはない。15時に登山路をノロ鹿が横切る。15時50分に観音寺コースの登山口に到着。タクシーで帰る。途中、Eマートで炊飯器(3人用、4.9万ウオン)や食材を買う。夕食はインスタントコムタン。」

城板岳コースのコースタイム(距離:9.6km、登り所要 時間:4 時間 30 分) 城板岳登山口(標高 750m)－5.6km・2 時間－紗羅待避所(標高 1217m)－1.7km・1 時間－チンダルレパツ待避所(標高 1540m)－2.3km・1 時間 30 分－頂上白鹿潭東稜(標 高 1933m)

(注 1) 漢拏山登山をした 2004 年、2005 年当時、4 コースであったが、現在は 5 コースである。約 15 年間の閉鎖の後、トンネココースが 2009 年 12 月に再開された。同 コースは南麓からウイッセオルム待避所までの距離 9.4km、登り所要時間 4 時間 30 分である。(注 2) 生態系の破壊防止と既破壊地の回復のために一定区域への出入りを統制する自然休年制が 1991 年に設けられた。この制度により、白鹿潭稜線の一周は禁止され、標高 1933m の東稜の一部にしか立ち入ることができない。標高 1950m の最高地点は、西稜にある。

(つづく)